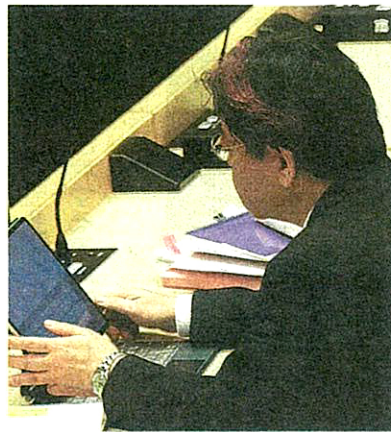


ピンクシャツデーの市議会

いじめ反対の意思表示

ピンク色のものを身に着けることでいじめに反対する意思を示す「ピンクシャツデー」の28日、川崎市議会では各会派の市議や福田紀彦市長らが思い思いにファッションにピンクを採り入れ、本会議に臨んだ。市議会でピンクシャツデーのキャンペーンに取り組むのは初めてで、いじめのない社会を実現する決意を新たに示した。
(北條香子)



織田勝久議員は髪の毛の一部をピンク色に染めて賛同の気持ちを示した

ピンクのネクタイで代表質問に立つ浜田昌利議員(手前)。奥は岩隈千尋副議長



ネクタイや髪の毛の一部も



ピンクのジャケットやシャツ、ネクタイを身に着け、議場に入る市議ら=いずれも市役所で

議場では、議員のほか幹部職員らもピンクのネクタイやジャケット、ピンクシャツデーをPRする缶バッジなどを着用。中には髪の毛の一部をピンクに染めた議員もいて、注目を集めていた。

ピンクシャツデーは2007年、カナダでピンクのシャツを着た男子生徒へのいじめを知った上級生2人が、周囲に同じ色のシャツ着用を呼びかけた青木功雄議長は、本紙の取材に「市民の代表である議会として、会派を超えていじめに対する問題意識を持っていることへのメッセージを示したい」と述べた。

今回、各会派に賛同を呼びかけて、いじめを止めたこと、2月の最終水曜日がピンクシャツデーとなり、世界各地で取り組みが広がっている。